

# 平成 30 年度の予算の概要

## ◎予算編成方針について

### 1. 基本方針

- 1) 少子化の踊り場にある 2020 年度迄は、入学学生数を 440 名以上確保することで、事業活動収支差額を均衡から若干のプラスとしつつ、施設・設備等の支出を賄うことが可能である。しかし、少子化が加速する 2021 年度以降は、入学学生数減少による収入減が予想されるため、引続き長期目標数値をめざし、財務力を高める取組みに努めていく。(財務)
- 2) 一方で、こうした大学を取り巻く厳しい状況の下、本学が特色のある大学として今後とも維持・発展していくため、学内で検討を重ねてきた教育学習支援、カリキュラム改革、国際交流推進、広報態勢強化等の取組への重点的予算配分も実施していく。(教学)
- 3) 本学の維持・発展に向けた様々な取組みについては、自らその過程や成果を検証し、更なる改善に向け取り組んでいけるような態勢を構築していく。(管理運営)

### 2. 目標数値

#### 1) 長期目標と短・中期的目標

	長期目標	短・中期目標	平成 29 年度決算	平成 30 年度予算
事業活動収支差額比率	10%	6%	6.6%	3.9%
対経常収入人件費比率	50%台前半	57%	57.4%	58.6%
手元流動性資金	事業活動収入の 8 割	30 億円	28 億円	28.3 億円

○財務力の強化のため、上記 3 点を長期的な数値目標とする。

○短・中期目標については 2020 年度迄の達成を目指し、取組みを継続する。

### 3. 長期目標数値実現に向けた短・中期的な取組み

#### 1) 人件費、諸経費抑制の取組み

- (1) 教職員人件費を抑制する方向で引き続き検討を行う。平成 32 年度には、人件費比率を 50% 台後半で更に低下させる。
- (2) 諸経費について、無駄の排除、相見積もりの徹底など従来からの取組を継続する。上記人件費の抑制と相まって平成 32 年度には事業活動収支差額比率 6%台を目指す。  
また、職員業務の見直しを行っていくことで、業務の質の向上と更なる経費削減への道筋をつけていく。

### 4. 平成 30 年度予算編成方針

#### 1) 教員:

任期付教員、特別任用教員制度の趣旨を踏まえ多様な教員採用を実現する。

## 2) 職員:

本格運用3年目となる新人事制度のより円滑な運用に努める。

## 3) 予算を傾斜配分する主なもの

### (1) 教育関係予算:

- ① 教育力向上に向けた取組支援のための特別予算は、通常予算に組み入れる。
- ② 教育学習支援策: 教育学習支援センター設置、カリキュラム改革等を実施する。

### (2) 学生募集のための特別予算:

高大連携/入試改革等の広報を外部連携も行いながら強化する。

### (3) グローバル人材育成予算:

国際交流を主目的とする学生寮を設置する。

発展協力会の給付型奨学金、及びチャレンジ奨学金の一層の活用促進をはかる。

### (4) ICT利用による教育支援促進のための予算:

一般教室AV機器更新等を実施する。

### (5) 建学の精神継承のための取組に対する予算:

- ① 設立母体の修道会や世界各地の教育活動現場の視察
- ② カトリック学校連盟の各種企画への積極的な参加
- ③ 姉妹校交流強化への取組み

### (6) 意識改革の為の予算:

教育研究強化に向け、必要な情報交換会・研修等の場づくりを支援する。

## 4) 大学施設/設備関係予算

- ① 設備・施設の更新を実施する。(図書館空調、講堂放送設備、4号館火災報知施設、ラフアエラホール変電設備、教員研究室工事ほか)
- ② 図書費は引き続き30百万円とする。
- ③ 施設・設備の長寿命化に向けた行動計画を策定する。(継続)
- ④ 本館建物維持保存のための改修を実施する。
- ⑤ 地域住民に配慮した計画的防災対策を実施する。(土砂崩れ等への備え等)

## 5) 収入増の取組

(1) 補助金獲得への全学的取組を促進する。

(2) 寄付金獲得への一層の取組を行う。

① 発展協力会: 若年層・企業等への取組を検討する。

② 70周年記念事業: 取組み計画を策定していく。

(3) 事業収入(生涯学習、施設使用等)の取組をより一層進める。

## ◎平成30年度収支予算書の概要

### 1.事業活動収支予算の概要

事業活動収支予算書は①教育活動収支②教育活動外収支③特別収支の三つの活動に区分され、それぞれの区分毎に収支差額を計上しています。

#### (1)三つの区分での収支状況

##### ①教育活動収支

学校法人の教育活動に係る収支状況を表す教育活動収支差額は、88百万円の収入超過(前年度予算比47百万円の増)の見込みです。

##### ②教育活動外収支

財務活動などの学校法人の教育活動以外の経常的な活動に係る収支状況を表す教育活動外収支差額は、14百万円の収入超過(前年度予算同額)の見込みです。

##### ③特別収支

経常的な活動以外の臨時的な活動に係る収支状況を表す特別収支差額は、2百万円の支出超過(前年度予算比5百万円の減)の見込みです。

#### (2)経常収支差額

学校法人の経常的な活動に係る収支状況を表す経常収支差額は、1億2百万円の収入超過(前年度予算比46百万円の増)の見込みです。この経常収支差額は、教育活動収支差額88百万円と教育活動外収支差額14百万円の合計です。

#### (3)基本金組入前当年度収支差額

基本金組入前当年度収支差額70百万円は、経常収支差額1億2百万円と特別収支差額△2百万円の合計から予備費30百万円を差し引いた額です。

#### 基本金組入前当年度収支差額の構成

##### ○事業活動収入計 25億50百万円

教育活動収入 25億36百万円	教育活動外収入14百万円
経常的な収入 25億50百万円	

##### ○事業活動支出計 24億80百万円

教育活動支出 24億47百万円	特別支出 2百万円	予備費 30百万円
経常的な支出 24億47百万円		

基本金組入前  
当年度収支差額  
70百万円

#### (4)基本金組入額

基本金組入額は、1億11百万円です。

これは、学校法人の諸活動を永続的に維持するために必要な資産を継続的に保持するために、維持すべきものとして組入れる金額です。

なお、基本金には、第1号基本金から第4号基本金まで、4種類の基本金があります。

**第1号基本金**は、建物、機器備品、図書などの固定資産の取得額です。

**第2号基本金**は、1号館校舎建替拡充資金として計画的に組入れている積立金です。

**第3号基本金**は、学園募金等の資金をファンドに、利息等で奨学事業や教育助成事業等を行っています。

**第4号基本金**は、学校が諸活動を円滑に遂行するために恒常的に保持すべき資金です。

#### (5)当年度収支差額

当年度収支差額は、41百万円の支出超過です。

これは、基本金組入前当年度収支差額から基本金組入額を差し引いた額です。

### 2.資金収支予算の概要

資金収入は31億84百万円となり、前年度比66百万円の収入増の見込みです。なお前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計は59億84百万円の見込みです。

これに対して、資金支出は31億55百万円となり、前年度比1億20百万円の支出増の見込みです。この結果、翌年度繰越支払資金は、28億29百万円の見込みです。